

日本語能力試験を援用した複数級間にわたる能力テストの試案

— 中上級レベルの学習者を対象に —

小池 康

要 旨

本稿は、日本語能力が不明な日本語学習者に対して、暫定的にレベルを把握する試案を提示するものである。

日本語能力試験の1級から3級までの文字・語彙・文法問題より、正答率・識別力・得点段階での選択率を基に設問項目を選び、再構成したテストを作成した（「日能テスト」）。テストは筑波大学留学生センターの補講J600レベル（中上級／中級後期に相当）で筆者の担当する文法クラスの受講生を対象に実施したが、古典的テスト理論による分析より、1級レベルで識別力が低い項目が多く、被験者のレベルが2級相当だということが実証されたものとなった。一方、同じJ600レベル文法クラスの受講生と言っても、中には3級レベルの学生もあり、クラスの構成にはばらつきがあることも明らかとなった。

【キーワード】 日本語能力試験 日能テスト 古典的テスト理論

Making a Tentative Test using Items from the Levels 1 to 3 JLPT : for learners of intermediate level

KOIKE Yasushi

【Abstract】 We conducted the following investigation to judge the Japanese language proficiency of foreign students who attended the intermediate/advanced grammar class at the International Students Center of Tsukuba University. The investigation consisted of items from the writing, vocabulary and grammar sections of the levels 1 to 3 Japanese-Language Proficiency Test (JLPT, hereafter).

The results of the analysis, which uses Classical Test Theory, show that many of the level 1 items were associated with low Item Discrimination Power, and that the members of this grammar class corresponded to level 2 of the JLPT.

【Keywords】 JLPT, test reconstituting JLPT, Classical Test Theory

1. はじめに

日本語能力試験 (The Japanese Language Proficiency Test、以下JLPTと略す) は、主に日本語を母語としない人を対象に、公的に日本語能力を測定し、認定することを目的として、国際交流基金と日本国際教育支援協会が実施しているものである (ただし2009年12月の実施をもって終了し、2010年度より新たな形で日本語能力試験が実施される)。JLPTは、学習段階に対応する1級から4級の級別に実施され、各級は文字・語彙 (100点)、聴解 (100点)、読解・文法 (200点) の3類計400点満点で結果が表示される。設問形式は、一つの設問につき四つの選択肢があり、正答一つを選びマークシートに記入するというものである。

2002 (平成14) 年度以降、毎年『分析結果に関する報告書』 (以下「報告書」と略す) が国際交流基金より刊行されており¹、試験の全設問項目の結果とその分析・評価が記載されている。

ところで、現在の大学の中には、JLPT 2級相当の日本語能力を条件として留学生の入学を決めているところがある。筆者もこれまでにそのような大学で教えた経験があるが、講義をしてみると2級レベルに至っていないと思われる学生も多く在籍する大学がある。

そこで、当の学生のレベルが実際にどれくらいのレベルなのかを判定する目的で、「報告書」に記載されているJLPTの設問項目およびその分析結果を基に、新たにテストを再構成した。この再構成したテストを以下「日能テスト」と呼ぶ。そして、筆者の勤務する二つの大学で、2009年度の新学期最初の授業時に留学生対象に実施した。

本稿は、筑波大学留学生センターで日能テストを実施した結果とその分析である。

2. 日能テストの概要

2.1 テストの構成

1で述べたように、JLPTは文字・語彙、聴解、読解・文法の3類のテストから構成されているが、日能テストではこの3類のうち、文字・語彙と文法から設問項目を選出し作成した。以下、この文字、語彙、文法の三つを独立した類として扱うことにする。

この3類にした理由としては、以下のような点が挙げられる。

1. 読解や聴解を含めた、JLPTのすべての類のテストを実施するには、時間的に不可能なため。
2. この3類だけに限定すると、問題項目数を多くすることができるため。
3. 将来的にSPOTとの組み合わせも念頭に置いているため、「聴解」的な側面はSPOTに帰することができる考えたため。

2.2 問題項目の選定

日能テストは、3級以上の設問項目より選出した。その理由としては、筆者が担当している非常勤勤務校では留学生の入学時の日本語レベルとして2級以上を設定しているのであるが、実感としてそのレベルに達していない留学生も近年多数見受けられたため、3級の設問項目も取り入れることにしたのである。

さて、報告書を見ると、当該年度に出題された設問項目とその正答率と識別力、および当該項目の回答パターンとも言える、得点段階と選択率のグラフなどの分析結果が記載されている（図1参照）。

問1 日本の一般家庭では和洋折衷の献立が多いようだ。

□

□ 1 折衷 1 セきちゅう 2 セきちょう 3 セっちゅう 4 セつちょう

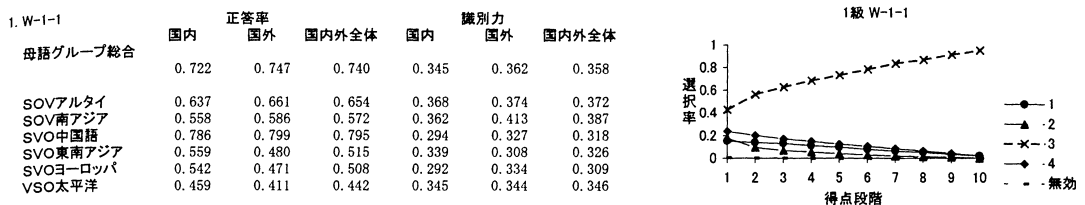


図1 JLPTの報告書における分析結果の記載例
(平成17年度1級「文字・語彙」問題I問1より)

図1における「正答率」とは、当該の設問項目に正解した受験者数の割合であり、正解者数を受験者数で割った値である。1ならば全員正解、0ならば全員不正解である。およそ0.3~0.7程度に入る項目が良問の目安とされる。

「識別力」は、当該の設問項目が、受験者間の日本語能力の違いをどれだけ反映しているかを表わす値（指標）で、統計学的には点双列相関係数が用いられる。これは、当該設問項目の正答者数（正答数）とテストの合計得点の相関係数であり、値は1～-1の間を取る。当該の設問項目の値が1に近くなるほど、それは能力の高い受験者が正答し、能力の低い受験者が誤答した項目ということを示している。このような項目は「識別力が高い項目」とされ、一般には0.3以上の数値が目安となる。

これに対し、値が0の場合、相関関係が無いということで、能力の高低で差が出なかった設問項目と言える。また、値がマイナスの場合は、能力の高い受験者が誤答し、能力の低い受験者が正解した場合であり、設問項目としては問題があるものと言える。このような、相関関係が無い項目やマイナスの値になる項目は「識別力が低い項目」とされ、一般には0.3以下を目安とする。識別力が低くなる要因としては、設問項目が難しすぎたり、

やさしすぎたりした場合は挙げられる。

次に図1のグラフの横軸である「得点段階」とは、各類別の受験者を得点順に並べ、それを10段階に区切ったものである。10になるほど高得点者であり、0に近くなるほど低得点者である。縦軸の「選択率」は、当該の得点段階の受験者がどの選択肢を選んだか、その割合を示したものである。

この得点段階別のグラフにより、設問項目の正答率だけからでは見えてこない、得点段階別の選択肢の選択傾向が明らかになる。一般的には、正答率と識別力を目安に、設問項目の良否を判断するのであるが、日能テストでは、この得点段階別のグラフも設問項目選定の目安にすることとした。

そこで、日能テストを作成するにあたり、まず得点段階と選択率の現れ方を大きくAからEの五つに分類した。さらに、複数の選択肢間で交差があった場合にに応じて、以下のようにな下位区分した。

A Aタイプー得点段階10で正答が1位にきた設問項目

Aタイプー正答の選択率が得点段階の8以上で1位にきた設問項目

A 2. 二つの選択肢間で交差（近接）があった設問項目²

A 3. 三つの選択肢間で交差（近接）があった設問項目

A 4. 四つの選択肢間で交差（近接）があった設問項目

Bタイプー正答の選択率が得点段階4～7で1位にきた設問項目

B 2. 二つの選択肢間で交差（近接）があった設問項目

B 3. 三つの選択肢間で交差（近接）があった設問項目

B 4. 四つの選択肢間で交差（近接）があった設問項目

Cタイプー正答の選択率が得点段階の3以下で1位にきた設問項目

C 2. 二つの選択肢間で交差（近接）があった設問項目

C 3. 三つの選択肢間で交差（近接）があった設問項目

C 4. 四つの選択肢間で交差（近接）があった設問項目

Dタイプー正答の選択率が得点段階1で1位にきた設問項目

Eタイプーどの得点段階においても、正答と誤答の差が少ない設問項目

Aタイプは総合得点が高かった受験者でも誤答した、相対的に難易度の高い設問項目であり、逆にDタイプは総合得点が低かった受験者でも正答した、相対的に難易度の低い項目である。そして、Eタイプは、受験者の得点の高低にかかわらず正答者の傾向が見られない項目である。このEタイプの設問項目は、結果的に識別力が低いものばかりであった。

JLPTより、具体的な設問項目と得点段階グラフを以下に示す。

Aタイプ

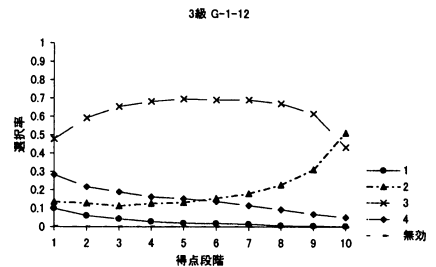
04年度 読解・文法 3級 問題Ⅰ-12

私は母（ ）泣かせるようなことはしたくない。

1 へ 2 を 3 に 4 の

12. G-1-12

	国内	正答率 国外	国内外全体	国内	識別力 国外	国内外全体
母語グループ総合	0.211	0.202	0.203	0.320	0.263	0.268
SOVアルタイ	0.388	0.214	0.216	0.444	0.270	0.274
SOV南アジア	0.235	0.228	0.229	0.355	0.284	0.296
SVO中国語	0.233	0.181	0.183	0.330	0.226	0.230
SVO東南アジア	0.147	0.228	0.205	0.241	0.324	0.308
SVOヨーロッパ	0.249	0.249	0.249	0.316	0.357	0.340
VSO太平洋	0.198	0.185	0.192	0.250	0.270	0.259



Bタイプ

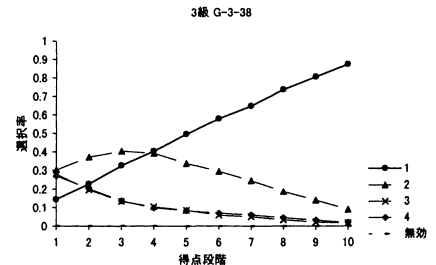
04年度 読解・文法 3級 問題Ⅲ-38

私が弟のシャツを洗って（ ）。

1 やった 2 くれた 3 くださった 4 いただけた

38. G-3-38

	国内	正答率 国外	国内外全体	国内	識別力 国外	国内外全体
母語グループ総合	0.533	0.523	0.524	0.466	0.512	0.507
SOVアルタイ	0.582	0.453	0.455	0.456	0.468	0.468
SOV南アジア	0.514	0.612	0.597	0.362	0.507	0.481
SVO中国語	0.641	0.541	0.544	0.517	0.543	0.543
SVO東南アジア	0.445	0.581	0.542	0.445	0.510	0.498
SVOヨーロッパ	0.592	0.527	0.550	0.449	0.481	0.473
VSO太平洋	0.367	0.473	0.418	0.390	0.467	0.425



Cタイプ

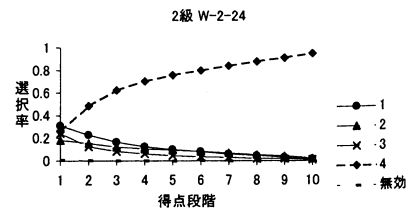
05年度 文字・語彙 2級 問題Ⅱ-24

お湯が^ゆわいたら、そこにうすく切った肉を入れてください。

わいた 1 熱いた 2 蒸いた 3 溶いた 4 沸いた

24. W-2-24

	国内	正答率 国外	国内外全体	国内	識別力 国外	国内外全体
母語グループ総合	0.609	0.739	0.719	0.455	0.451	0.453
SOVアルタイ	0.359	0.316	0.322	0.413	0.401	0.403
SOV南アジア	0.298	0.457	0.389	0.290	0.485	0.432
SVO中国語	0.938	0.934	0.934	0.281	0.308	0.305
SVO東南アジア	0.369	0.415	0.401	0.420	0.446	0.439
SVOヨーロッパ	0.344	0.359	0.352	0.420	0.407	0.408
VSO太平洋	0.276	0.290	0.283	0.286	0.261	0.269



Dタイプ

04年度 文字・語彙 1 級 問題V-47

失敗から多くの（ ）を学んだ。

1 教科

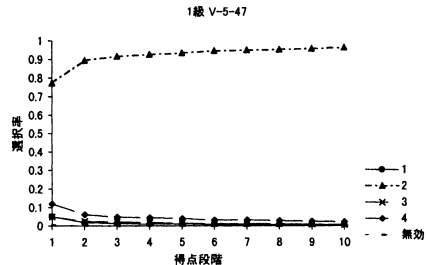
2 教訓

3 教材

4 教習

47. V-5-47

	正答率		国内外全体	識別力		
	国内	国外		国内	国外	国内外全体
母語グループ総合	0.904	0.931	0.922	0.350	0.310	0.321
SOVアルタイ	0.875	0.918	0.906	0.489	0.394	0.419
SOV南アジア	0.378	0.381	0.380	0.420	0.370	0.394
SVO中国語	0.977	0.973	0.975	0.172	0.131	0.144
SVO東南アジア	0.499	0.455	0.476	0.416	0.371	0.395
SVOヨーロッパ	0.485	0.519	0.500	0.470	0.498	0.481
VSO太平洋	0.417	0.292	0.367	0.485	0.647	0.553



Eタイプ

05年度 読解・文法 2 級 問題IV-34

レポートは最後まで書いた（ ）書いたんですが、まだ足りない部分もあります。

1 つもりは

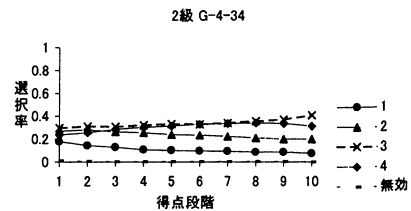
2 ものは

3 ことは

4 ほどは

34. G-4-34

	正答率		国内外全体	識別力		
	国内	国外		国内	国外	国内外全体
母語グループ総合	0.335	0.339	0.338	0.110	0.060	0.068
SOVアルタイ	0.323	0.311	0.313	0.107	0.002	0.018
SOV南アジア	0.326	0.308	0.316	0.125	0.093	0.105
SVO中国語	0.341	0.346	0.345	0.088	0.077	0.078
SVO東南アジア	0.355	0.363	0.361	0.126	0.177	0.162
SVOヨーロッパ	0.332	0.366	0.350	0.203	0.153	0.172
VSO太平洋	0.237	0.291	0.263	0.182	0.058	0.115



日能テストの設問項目は、過去に出題された文字、語彙、文法の1～3級の項目を上記A～Eに分類し、さらにその分析結果（正答率・識別力、得点段階と選択率のグラフ）を踏まえて選び出した。ただし今回は、入手できた報告書が平成16（2004）年度および17（2005）年度の二年分のみだったので、これらより設問項目を選定した。

また、今回のテストでは2級（以上）の日本語能力を持つと想定される学生の能力を測ることに視点を置いたため、各級の項目数は1・2級が同数程度、3級はそれより少ない項目数にすることとした。そして、3級の項目は同級の中でも相対的に難易度の高かった項目（AやBレベルの項目）を中心に構成した。これは、3級の設問項目の中で特にAタイプに位置づけられるような項目は、3級レベルの中でも難問と言え、それは質的に2級レベルと重複すると見なせるからである。

なお、今回のテストはJLPTで出題されたすべての問題ボタンを網羅したものとはなっていない。たとえば、JLPTでは文字問題で問題文中の漢字語と同じ読みをする漢字語を

選択させる問題があるが、今回のテストにはない。これは、このような形式の設問項目が少なく、また特に設問項目として立てるような分析結果ではなかったためである。

以上を踏まえ、各級の設問項目数は1級が25問、2級が25問、3級が16問の合計66問となった。表1は項目数の内訳である。なお、Dタイプの設問が2問含まれているが、これは漢字の書き問題の数が少なかったために、項目数調整のために入れたものである。

表1 各級の設問項目数

	1 級			2 級			3 級			小計	合計
	文字	語彙	文法	文字	語彙	文法	文字	語彙	文法		
A A	1	1	1						1	4	18
A 2	1	1			2	1			1	6	
A 3					1					1	
A 4					1	1		3	2	7	
B 2	1	2	1	2		3	1			10	28
B 3	2				3			1		6	
B 4	2	2	1		1		1	2	3	12	
C 2	2	2	3	1			1			9	18
C 3		1		2		1				4	
C 4				3	1	1				5	
D	1			1						2	2
小計	10	9	6	9	9	7	3	6	7	66	66
合計	25			25			16			66	

問題構成は、大問を全部で5つ設けた。問1は漢字の読み問題、問2は漢字の書き問題、問3は語彙問題、問4は文法問題、問5は語の用法の問題となっている。各問とも基本的に、設問項目は3級レベルから1級レベルになるようにし、また同一級内では上述のD（大半の受験者が正解した設問項目）からA（大半の受験者が誤答の設問項目＝できる受験者が正解した設問項目）になるように配列した。

以上を踏まえ、日能テストを作成した。具体的な設問項目は本稿末資料を参照のこと。

3. テスト実施の概要

日能テストは、K大学と筑波大学留学生センターの筆者の担当授業において、2009年度4月の学期初回の授業時に実施した³。テストの制限時間は、JLPTの文字・語彙の実施時間と日能テストの設問項目数より40分と定めた⁴。

K大学では日本語教員養成講座のクラスで実施した。当クラスは、基本的には日本人学生を対象としているが、近年自国に戻って日本語教師になろうと考えている留学生も多く受講するようになり、クラスによってはほとんどが留学生という年度もあった。この傾向

は近年顕著であったが、2009年度前期は受講生が減少し、初回の講義に出席した学生数は27名にとどまった。

2.2で述べたように、K大学では留学生の入学時の日本語レベルとして2級レベルを規定している。これまでも多くの外国人受講生がおり、総じて日本語のレベルも高く、抽象的な講義内容にも対応できていたが、近年受講生の中には発言や提出物、授業中でのやり取りなどを見ると、2級レベルに達していない者も多いのではないかと思うようになった。このことが、本テスト実施のきっかけとなっている。

筑波大学では、中上級（中級後期）に該当する補講J600レベルの文法クラスで実施した。このクラスで実施することとしたのは、このJ600レベルというのがおよそJLPTの2級に相当するため、日能テストの出題レベルと同程度と想定されたためである。

ここで筑波大学の留学生センターの日本語教育部門について、若干の説明を加えておく。当センターの日本語教育部門は、予備教育クラスと補講クラスの二本を柱として構成されており、このうち補講クラスはJ100からJ700の七つのレベルが設定されている。J600レベルは、上から二番目のレベルで、中上級もしくは中級後期に位置づけられている。J600レベルには、文法クラスのほか「聞く」「話す」「読む」「書く」といったクラスがある。今回テストを実施したのは、このうちの文法クラスである。本稿では、この文法クラスでの結果を分析対象とする⁵。

4. 分析

4.1 古典的テスト理論による分析

表2は、今回実施した日能テストの、各級別の被験者の正答数・正答率・識別力を表わしたものである。識別力のうち太枠で囲まれた数値は、同一級内における識別力が0.3以下の「識別力が低い項目」であることを示している。また、比較のため、JLPTにおける正答率と識別力をそれぞれ「J正答率」「J識別」として示した。識別力が0.3以下の項目数は、3級4項目、2級5項目、1級12項目であった。

さて、表2より指摘できる点を以下に挙げ、考察を加える。

1. 今回の被験者はJLPT 2級相当と判断された留学生が中心であったが、日能テストの2級レベル（および下位級の3級レベル）の設問項目では全体的に高い識別力が得られた。これは、被験者の能力を適正に判断しうる設問項目が多かったことを表わしている。

表 2 各級別設問項目の正答数・正答率・識別力

3 級	Q 1						Q 2			Q 3					
	1	2					16			23	24	25	26		
	B2	B4					C2			B4	A4	A4	A4		
正答数	52	41					56			59	45	34	32		
正答率	83.9%	66.1%					90.3%			95.2%	72.6%	54.8%	51.6%		
識別力	0.434	0.604					0.252			0.290	0.283	0.419	0.347		
J正答率	56.0%	36.5%					65.8%			35.2%	33.9%	32.4%	21.0%		
J識別	0.354	0.342					0.417			0.340	0.413	0.419	0.277		

2 級	Q 1						Q 2			Q 3					
	3	4	5	6	7	8	17	18	19	27	28	29	30	31	32
	C3	C3	C4	C4	B2	B2	D	C2	C4	C4	B4	B3	B3	A2	A3
正答数	38	39	36	47	26	28	60	51	48	38	45	26	37	26	18
正答率	61.3%	62.9%	58.1%	75.8%	41.9%	45.2%	96.8%	82.3%	77.4%	61.3%	72.6%	41.9%	59.7%	41.9%	29.0%
識別力	0.578	0.243	0.686	0.316	0.397	0.353	0.112	0.435	0.461	0.502	0.340	0.478	0.437	0.608	0.169
J正答率	62.7%	60.6%	55.2%	55.7%	50.5%	43.7%	94.9%	74.1%	71.9%	47.2%	46.2%	39.9%	40.8%	34.2%	33.8%
J識別	0.461	0.343	0.481	0.336	0.301	0.280	0.408	0.492	0.453	0.313	0.299	0.322	0.390	0.375	0.245

1 級	Q 1						Q 2			Q 3					
	9	10	11	12	13	14	15	20	21	22	34	35	36	37	38
	C2	B2	B3	B4	B4	A3	A2	D	C2	A A	C3	C2	B2	2	B4
正答数	25	21	19	26	15	7	19	48	24	18	51	14	13	17	20
正答率	40.3%	33.9%	30.6%	41.9%	24.2%	11.3%	30.6%	77.4%	38.7%	29.0%	82.3%	22.6%	21.0%	27.4%	32.3%
識別力	0.332	0.418	0.274	0.293	0.399	0.135	0.381	0.396	0.302	0.319	0.443	0.453	0.208	0.311	0.367
J正答率	52.9%	52.7%	32.9%	52.4%	48.6%	52.7%	42.7%	89.6%	57.8%	34.4%	55.7%	57.9%	45.1%	56.5%	49.8%
J識別	0.320	0.363	0.247	0.401	0.386	0.423	0.352	0.349	0.314	0.099	0.347	0.476	0.375	0.483	0.444

3 級	Q 4						Q 5			総問題数 16問
	40	41	42	43	44	45	46	60	61	
	A A	B4	B4	B4	A4	A4	A2	B3	B4	
正答数	35	37	51	35	29	29	24	49	53	
正答率	56.5%	59.7%	82.3%	56.5%	46.8%	46.8%	38.7%	79.0%	85.5%	
識別力	0.463	0.413	0.314	0.300	0.335	0.322	0.372	0.483	0.264	
J正答率	20.3%	52.4%	49.7%	48.1%	26.4%	22.9%	33.1%	47.8%	47.3%	
J識別	0.268	0.507	0.365	0.284	0.276	0.309	0.265	0.486	0.488	

2 級	Q 4						Q 5			総問題数 25問
	47	48	49	50	51	52	53	62	63	
	C3	C4	B2	B2	B2	A2	A4	B3	A2	
正答数	37	47	38	29	24	13	13	27	44	
正答率	59.7%	75.8%	61.3%	46.8%	38.7%	21.0%	21.0%	43.5%	71.0%	
識別力	0.540	0.379	0.599	0.481	0.353	0.278	0.500	0.348	0.260	
J正答率	57.8%	63.7%	45.1%	51.3%	51.5%	32.8%	30.5%	34.6%	39.7%	
J識別	0.391	0.484	0.333	0.302	0.333	0.235	0.226	0.170	0.295	

1 級	Q 4						Q 5			総問題数 25問
	54	55	56	57	58	59	64	65	66	
	C2	C2	C2	B2	B4	A A	C2	B4	A A	
正答数	13	19	16	28	10	8	30	13	22	
正答率	21.0%	30.6%	25.8%	45.2%	16.1%	12.9%	48.4%	21.0%	35.5%	
識別力	0.292	0.220	0.224	0.127	0.274	0.102	0.417	0.135	0.220	
J正答率	67.3%	67.7%	63.5%	44.5%	32.7%	26.7%	61.2%	33.5%	27.7%	
J識別	0.436	0.447	0.459	0.322	0.386	0.199	0.394	0.361	0.232	

2. 1 級の語彙問題 (Q3) で識別力が高い設問項目の中には、JLPTの結果と大きな相違が見られた項目があった。たとえば、問34、35、37などである。問34は正答率がJLPTに比べて高く、逆に問35、37は正答率が低くなっている。特に問34の正答率は1級の全設問項目の中で一番高かった。

問34. 同じ英語（ ）の国といっても、そこで使われている英語はさまざまだ。

1 圏 <small>けん</small>	2 産 <small>さん</small>	3 園 <small>えん</small>	4 編 <small>へん</small>
82.3	1.6	1.6	14.5

(数字は選択率(%)、以下同)

問34の正答率が高かった理由は、現段階では不明である。ただ、中国28名・韓国10名・台湾3名といった、いわゆる漢字圏の被験者41名はすべて正答を選択していたのに対し、誤答した被験者11名はすべて非漢字圏の学生であった(非漢字圏で正答を選んだ者は10名であった)。

問35と37は、正答率がJLPTよりも大幅に低かった項目である。

問35. 彼女はいつもにこにこしていて（ ）がいい。

1 感情 <small>かんじょう</small>	2 愛想 <small>あいそう</small>	3 愛情 <small>あいじょう</small>	4 感想 <small>かんそう</small>
41.9	22.6	16.1	17.7
			NA1.6

問37. このカメラは使い方が（ ）ので、評判が悪い。

1 あつかましい	2 たくましい	3 ややこしい	4 ふさわしい
22.6	11.3	27.4	32.3
			NA6.5

問35は愛・感／想・情の前後を組み合わせた選択肢となっており、問37は語尾がーシイで統一された選択肢となっている。その意味で、語形と意味がしっかり把握できているかどうかを問う項目である。

このような類似した語形を問う項目の正答率が低いということは、語形と意味・用法とが定着していないということであり、学習時にはより細心の注意を払わせるようにしなければならない。

3. 日能テストにおける1級文法問題(Q4)の設問項目での識別力がすべて0.3以下であった。これは、選定した設問項目が今回テストを受けた留学生の能力を正しく測る機能を果たしていないことを意味している。正答率もおおむね低い。これに比べ、2級や3級の文法問題では総じて高い識別力を示しており、被験者の能力を反映した設問項目であったと言える。

4. 3級の設問では、日能テストとJLPTの識別力の結果に違いが見られる。漢字の書き問題(Q2)や語彙問題(Q3)ではJLPTで識別力の高かった設問で識別力が低くなっ

ており、逆に文法問題（Q4）ではJLPTで識別力の低かった設問で高い識別力となっている。

しかし、識別力の高かった問16（Q2）や問23（Q3）は正答率が9割以上と高く、特に問16は得点段階のタイプがCタイプということで、被験者にとっては易問ゆえ識別力が上がらなかったと考えられる。問23はBタイプだが、JLPTの結果と比べ、極端に正答率が上がっている。問題の内容が被験者の日常生活と合致したものだったことが考えられる⁶。問16と23を以下に示す。

問16 この部屋はくらくて寒い。

くらくて	1 黒くて	2 晩くて	3 暗くて	4 暮くて
	9.7	0.0	90.3	0.0

問23 本屋の（ ）で3000円はらった。

1 レジ	2 タイプ	3 ベル	4 ジャム
95.2	3.2	1.6	0.0

JLPTでは識別力が低かった設問で高い識別力を見せたQ4は、正答率が5割前後の項目が多い。正答率が5割前後の場合、すなわちやさしすぎず難しすぎもしない設問項目の場合、識別力は高くなるとされることから、今回の結果もそれを反映したものであろう。

3級の設問項目は、先述の通り、AやBタイプといった、3級内でも相対的に難しい項目を主に選定したため、正答率が上がらなかったのではないかと考えられる。しかし、厳しい見方をすれば、いくら相対的に難しい項目を選んだとは言え、2級相当と目される今回の被験者において、3級レベルの文法項目が未定着であるということを示唆する結果となったことも事実である。

4.2 被験者の結果

表3（次頁）は、今回の被験者の結果を、総得点および各級ごとに百分率で示したものである。なお、級別の平均点は、3級〔16点満点〕：10.7点（66.9％）、2級〔25点満点〕：14.0点（56.0％）、1級〔25点満点〕：8.8点（35.2％）であった。表中、太枠で囲んだ斜体太字の数値は、当該級内で7割以上の得点だったことを示している⁷。また、「認定級」欄の「2/08」とは、2008年度のJLPTにて2級を認定されたことを意味している。同様に、「1不/08」では2008年度のJLPT1級を受験したが、不合格だったことを示している。他の級の表示もこれに準ずる。

順位付けは、正答率を基に順次3級・2級・1級での正答率順に行なった。これは、

Rasch Modelの前提と同じ考えであることによる。

Rasch Modelは、基本的に、

①能力の高い受験者の設問項目に正解する確率は、どのような項目においても、能力の低い受験者よりも高い。

②どのような受験者でも、難しい項目よりはやさしい項目に正解する確率は高い。
という前提より成り立っている。

表 3 日能テスト被験者の結果

順位	国籍	認定級	正答率	3級	2級	1級	順位	国籍	認定級	正答率	3級	2級	1級
			66問	16問	25問	25問				66問	16問	25問	25問
1	中国	2/08	76	94	88	52	32	中国		50	50	72	28
2	中国	1/07	76	88	80	64	33	中国		50	44	56	48
3	韓国		76	81	84	64	34	ブラジル	2/08	48	94	44	24
4	中国	1/07	76	63	92	68	35	中国		48	69	48	36
5	韓国	1/08	71	75	80	60	36	中国		48	63	56	32
6	韓国	2/08	70	63	92	52	37	中国		48	56	52	40
7	カザフスタン	2/08	68	94	80	40	38	韓国		48	56	48	44
8	韓国	1/08	68	88	84	40	39	中国		47	88	36	32
9	エジプト	3/07	67	100	80	32	40	台湾		47	56	60	28
10	韓国	2/08	67	81	72	52	41	中国	1/06	44	69	40	32
11	中国	1不/08	67	75	80	48	42	中国		44	56	36	44
12	韓国	2/08	65	81	80	40	43	リトアニア		42	75	40	24
13	中国	1/05	64	88	68	44	44	韓国		42	63	44	28
14	中国	1/08	62	81	72	40	45	中国		42	56	52	24
15	エジプト	3/07	61	94	68	32	46	台湾	3/04	41	50	56	20
16	インドネシア	1不/08	61	75	60	52	47	イタリア		39	81	40	12
17	中国	1不/08	59	81	72	32	48	クロアチア		39	56	52	16
18	ルーマニア		58	88	72	24	49	チュニジア		39	56	44	24
19	中国	2/05	58	63	72	40	50	台湾	3/07	38	44	32	40
20	中国	2/06	58	63	64	48	51	カザフスタン		36	69	40	12
21	カザフスタン	2不/07	56	81	72	24	52	韓国		36	50	36	28
22	中国		55	75	52	44	53	アメリカ		35	63	36	16
23	ミャンマー	2/06	55	69	56	44	54	韓国		35	50	44	16
24	中国		55	63	60	44	55	カナダ		35	50	24	36
25	中国	1不/07	53	69	60	36	56	中国		33	50	32	24
26	中国	2/08	53	44	68	44	57	中国	2/08	33	44	28	32
27	中国		52	75	52	36	58	スペイン	2不/08	32	63	24	20
28	中国		52	63	68	28	59	エストニア		30	44	36	16
29	タジキスタン		52	63	56	40	60	ラトビア		26	44	16	24
30	中国	2/02	52	63	56	40	61	タイ		26	31	24	24
31	ウクライナ	2/08	50	81	52	28	62	中国		23	38	20	16

この考え方は、項目応答理論にも用いられているものである。今回は被験者数が少数だったため項目応答理論は適用することができなかったが、今後、より多人数での日能テストの実施を視野に入れているため、このモデルに準じた順位付けを行なった。

表 4 上位～下位群の平均正答率

	全体	3 級	2 級	1 級
	66問	16問	25問	25問
上位20位の平均	66%	81%	77%	46%
中位の平均	50%	66%	55%	36%
下位20位の平均	35%	54%	36%	23%

さて、表 4 は、大まかな傾向を把握するために、表 3 を暫定的に上位・下位それぞれ20位までのグループと、その中間のグループに分け（表 3 の二重線で区切った箇所）、平均正答率を出したものである。

表 3 と表 4 を用いて、以下考察を加える。

1. 表 4 を見ると、上位のグループでは、2・3 級では 7～8 割の正答率なのに対して、下位のグループでは 3 級の項目でさえ 5 割強にとどまっている。上位と下位の間で、能力に大きな差があることがうかがえる。
このことは、個別的に見た場合でも明確である。表 3 を見ると、最上位の正答率は 76 %（正答数 50 項目）であったのに対し、最下位は 23 %（同 15 項目）と、大きな開きが見られた。
2. 表 3 より、1 級保持者でも 1 級の設問項目で 7 割以上の正答を挙げた者はいなかった。表 2 での Q 4（文法問題）や Q 5（語の使用法）で正答率も識別力も低かったことと考えると、今回の日能テストの設問はたとえ 1 級保持者であってもかなり難しかったようである。
3. 表 3 より、3 級の結果を見ると、成績上位者が必ずしも下位の学生より得点が高いわけではない。しかし、上位 20 位のうち 3 級項目で 8 割以上の正答率だったのが 13 名、7 割以上ならば 16 名いることや、JLPT 1・2 級保持者も多いことから、これらの学生にとっては 3 級項目では得点差が出なかったと言える。また、成績上位者でも 3 級の正答率が 7 割を下回る者がいた。しかし、2 級項目では 9 割以上の正答率だった者もあり、そのような被験者は 3 級レベルの設問をかえって難しく解釈してしまった可能性が考えられる。

今回の結果より、筆者の担当する J600 レベル文法クラスは、その内訳を見ると、上位の学生たちは JLPT における 2 級レベルの項目に 8 割近く正答する能力を有しているのに対し、下位の学生では 3 級レベルの項目でさえ 5 割ほどの正答率であった。後者の学生は、JLPT の 3 級レベルと判断してよいかどうかとも怪しいところであろう。

4. 3 まとめ

設問項目と被験者の双方の観点より、今回の日能テストの結果を分析した。まとめると、

以下のようなろう。

- ・テストの性質という観点では、2・3級の項目では高い識別力が得られたことから、おおむね被験者の能力を適切に測れる項目が多かったと言える。一方、1級の項目では識別力も正答率も低い項目が多く、今回の被験者の能力を測る機能を果たしていない項目が多かったと言える。これは、今回の被験者が2級相当のレベルであるという前提のもとでのテスト実施であったので、1級項目の結果は妥当と言えば妥当と言える。
- ・被験者の結果を見ると、等しくJ600レベルの文法クラスの受講を認定された学生たちではあったが、今回のテストを見ると能力差が大きいようである。特に3級の文法項目では正答率が40～50%で、識別力がいずれも0.3以上と高いことから、3級レベルの文法項目が定着していない学生が誤答したと言える。確かに文法項目の定着は難しい面もあるが、対策を講じる必要はあろう。

5. おわりに—今後の課題—

JLPTの分析結果報告書の1級から3級までの文字・語彙・文法のデータを基に、日本語能力が不明（もしくは曖昧）な留学生を対象とするテストを試験的に作成し、筆者の勤務校で実施したものの結果を示し、考察を加えた。

テストは、筑波大学留学生センターのJ600レベル（中上級／中級後期）の文法クラスの留学生を被験者として実施した。古典的テスト理論による分析より、テストの設問項目は2・3級の項目において識別力が高い項目が多く、被験者に適切な項目が多かったと言える。また、被験者の面より見ると、上位と下位の間に大きな差があることがわかった。同じJ600レベルで同じ文法クラスを受講していると言っても、中にはJLPT3級に該当するような学生もあり、構成にばらつきがあることも明らかとなった。

また、文字、語彙、文法の類別では、文法項目での定着の低さが浮き彫りとなった。これは、文法事項の積み重ねがうまく機能していないことも考えられるので、早急の対策が必要であろう。自他動詞（問44）、アスペクト（問45）、理由のノデ（問46）など、日常生活で多用するが学生へ定着させることが難しい文法事項については、JLPTの設問項目を利用して、正用と誤用を意識させるようにするのも一つの方法であろう。

今回は、62名の被験者しか得られなかったため、項目応答理論等を用いた分析はできなかった。これからも継続してデータを収集し、他の能力を測る試験（SPOTなど）との比較検討も行なうことにより、テストの安定性を図っていきたい。

注

1. 2002年度以前は、『日本語能力試験分析評価に関する報告書』として1992年度より公

表されていたが、一般に入手できるようなものではなかった。

2. 「A2」とは、Aタイプで2つの選択肢間で交差があったことを示している。B、Cタイプも同様である。
3. 筑波大学は「春学期・秋学期・冬学期」の3学期制、K大学は「前期・後期」の2学期制である。
4. JLPTの文字・語彙の設問項目数と試験時間は、1・2級は65問／45分、3級は55問／35分である。
5. 2009年度春学期の留学生センターの留学生は、4月当初に来日した学生（「新規」）と前年度以前より筑波大学に在籍し、センターの講義を受講した経験を持つ学生（「継続」）とがいる。本稿では、紙幅の都合上、この違いに基づいた考察は提示できなかったが、「継続」の被験者よりも「新規」の被験者のほうが、いずれの級においても正答率が高かったという結果であった。
6. これは、問39（1級Q3：「レポートのために図書館から借りていた本を（返却）した。」）にも該当する。当項目はJLPTでは得点段階の8で正答の選択率が1位になった項目（Aタイプ）である（正答率41.3％・識別力0.176）。しかし、日能テストでは75.8％が正答し、識別力も0.361と高かった。図書館を利用することが多いと思われる今回の被験者からすれば、「返却」という語はなじみのある語ということになろう。
7. JLPT1級の正答率から見た認定基準は7割以上、2・3級では6割以上が目安となっている。

参考文献

- 伊東祐郎ほか（2008）『留学生の日本語能力測定のためのテスト項目プールの構築』、平成16（2004）年度～平成19（2007）年度科学研究費補助金基盤研究（A）研究成果報告書（課題番号 16202008）研究代表者：伊東祐郎
- 小野塚若菜・島田めぐみ（2008）『日本語教師のためのEXCELでできるテスト分析入門』、スリーエーネットワーク
- 中村洋一（著）・大友賢二（監修）（2002）『テストで言語能力は測れるか～言語テストデータ分析入門～』、桐原書店
- 日本語教育学会編（1991）『日本語テストハンドブック』、大修館書店
- 前田啓朗・山森光陽（編著）、磯田貴道・廣森友人（著）、三浦省五（監修）（2004）『英語教師のための教育データ分析入門』、大修館書店

本稿末資料 実施用日能テスト(実施時の結果およびJLPTとの比較、全8頁)

Q1 _____ のことばはどう読みますか。1・2・3・4から一つ選びなさい。

1. 私は北区にある学校に通っています。
通って 1 かゆって 2 かよって 3 とうって 4 とおって
0.0 83.9 4.8 11.3
- 「通って」は訓読みが正確あり、本問は3級レベルの学習者を識別するのに良問であった。(JLPTでは、正答: 2. 56.0%、4. 31.4%)

2. き の、近所で火事があった。
近所 1 きんじょう 2 きんしやう 3 きんしよ 4 きんじよ
25.8 1.6 6.5 66.1

JLPTでは、「きんじょう」が28.8%いた。正答は38.5%。母語グループ別の結果を見ると顕著な差はなく、すべての受験生にとって難しい項目であったと言える。出題意図は清濁の区別と拗音の長短にあったが、受験生にとっては拗音の区別が清濁以上に難しいことや、「住所」等の「しよ」と読音する場合も長音と区別している可能性をうかがえる。

3. 部屋の中に机が置いてある。
隅 1 うち 2 かど 3 はし 4 すみ
9.7 27.4 0.0 61.3 NA1.6

4. 最近、空港の準備が厳重になった。
厳重 1 げんじやう 2 げんちやう 3 げんじゆう 4 げんちよう
21.0 6.5 62.9 9.7

5. その小さなミスが悲劇を招く原因となった。
招く 1 はぶく 2 まねく 3 いたく 4 のぞく
14.5 58.1 16.1 8.1 NA3.2
- JLPTでは、正答は55.2%。読音誤差は全語彙に分散している。得点下位グループでは、語彙そのものを覚えていなかった可能性も考えられる。

6. この町で面談ができるところを探したのは面倒だ。
面談 1 りようたい 2 りようかえ 3 りようがえ 4 りようだい
12.9 8.1 75.8 3.2

7. 草を取る作業はほぼ終了した。(JLPTと同傾向)
作業 1 さぎやう 2 さくぎや 3 さぎよ 4 さくぎよう
41.9 4.8 1.6 51.6

JLPTでは、「さくぎよう」が41.9%あり、実質「さぎよう」と「さくぎよう」の二者択一。得点上位グループの読みが正確さが正確さと誤差を下げている。母語グループ別の読解力では、東南アジア系が0.259、中国語系0.290と、0.3以下であった。

「作」は2003年度にも「操作」として出題され、「そうさく」と誤答する受験者が多かった。「作」は一般的に製造の早い段階で学習するが、初級の語彙では「つくる/ヤク」で学習が促わってしまい、中級以降での読者の習得が不十分であるようだ。

8. アジア諸国の経済について講演を行った。(JLPTと同傾向)
諸国 1 しゃこく 2 しゃこく 3 しゃこく 4 しゃこく
11.3 33.9 8.1 45.2 NA1.6

JLPTでは、「しゃこく」43.7%、「しゃこく」29.2%。

9. 当店で、本場から輸入した各種ワインをお楽しみいただけます。(JLPTと同傾向)
各種 1 かっしやう 2 かっしゆ 3 かっしゆ 4 かっしゆ
9.7 40.3 1.6 48.4

JLPTでは、「かっしやう」が31.3%いた。正答は52.9%。中国語系、アルタイ語系の正答率が低かった。「かっしやう」など読みが正確さを示唆している。

10. 花の苗を鉢に入れ、育て方のメモを送って友人にあげた。
鉢 1 そなえて 2 ととのえて 3 そえて 4 くわえて
37.1 17.7 33.9 8.1 NA3.2

11. 明日、コピーのお金を基費で徴収します。(JLPTと同傾向)
実費 1 じつひ 2 じつび 3 じつび 4 じつひ
32.3 6.5 30.6 29.0 NA1.6

JLPTでは、「じつひ」が32.5%いた。中国語系、アルタイ語系の正答率が低かった。「じつひ」「じつひ」など読みが正確さを示唆している。

12. 彼は連日徹夜で練習し、本番に臨んだ。
臨んだ 1 のぞんだ 2 いのんだ 3 はげんだ 4 からんだ
41.9 22.6 19.4 12.9 NA3.2

13. 佐藤氏はこの学校を復讐させた人物だ。
復讐 1 ふっきやう 2 ふっきこう 3 ふくきやう 4 ふくこう
48.4 24.2 3.2 3.2

14. 生徒たちから慕われていた田中先生が亡くなったようだ。
慕われて 1 になわれて 9.7 2 したかれて 40.3
3 うやまわれて 37.1 4 したかれて 11.3 NA1.6

15. 彼は、会議では始終無言で黙いて、情を崩さなかった。(JLPTと同傾向)
無言 1 むごん 2 ふごん 3 むげん 4 ぶげん
30.6 0.0 67.7 1.6
- JLPTでは、「むげん」が51.6%いた。

Q2 _____ のことばはどう書きますか。1・2・3・4から一つ選びなさい。

16. この部屋はくらくて寒い。
くらくて 1 黒くて 2 暗くて 3 暗くて 4 暮くて
9.7 0.0 90.3 0.0

17. 夫婦はお互いによりかいしあうことが必要だ。
りかい 1 理解 2 理解 3 理解 4 理解
1.6 1.6 0.0 96.8

18. 検査会社に製品テストをいらいする。
いらい 1 以来 2 以順 3 依頼 4 依頼
6.5 4.8 82.3 6.5

19. お腸がわいたら、そこにくすく切った肉を入れてください。
わいた 1 沸いた 2 熱いた 3 溶いた 4 蒸いた
77.4 8.1 4.8 6.5 NA3.2
20. 彼は、車のそうおんが気になって眠れなと言っていた。
そうおん 1 雑音 2 騒音 3 響音 4 奏音
6.5 77.4 11.3 1.6 NA3.2
21. これまで蓄積してきたぼうだいデータを活用する。
ぼうだい 1 莫大 2 膨大 3 冒大
29.0 38.7 8.1 22.6 NA1.6
22. 幹部がこうたいして、保守派が少なくなった。
こうたい 1 交退 2 降退 3 降代 4 交代
41.9 25.8 0.0 29.0 NA3.2
- JLPTでは、「交退」が25.3%、「降退」が38.4%いた。ほぼすべての得点段階で選択誤交・交退・降退に
外音が分散している。中国語系受動者は「選」(しりぞく)の意味に注目して動詞選択誤「交退」「降退」を選
んだと考えられる。
- Q3 () のところどのことばを入れますか。1・2・3・4 から一番
いいものを選びなさい。
23. 本屋の () で3000円はらった。
1 レジ 2 タイプ 3 ベル 4 ジャム
95.2 3.2 1.6 0.0
24. この肉はかたいので、よく () 食べてください。
1 こんで 2 のんで 3 やんで 4 かんで
9.7 3.2 12.9 72.6 NA1.6
- JLPTでは、得点段階7になって正答が響音を上回ることから、この問題が難しかったこと、また正答の曲
線の上昇が右よりなために、識別力がほど上がらなかったことがわかる。使用頻度が低いため、学習する
機会がなかったのはろう。
25. 庭にきれいな花を () 。
1 とりましよう 2 えましよう 3 かえましよう 4 はりましよう
16.1 54.8 16.1 6.5 NA6.5
26. 強い風で大きな木の枝が () しまった。
1 やぶれて 2 おれて 3 たおれて 4 こわれて
16.1 51.6 25.8 6.5
- 「えだ」の意味が分からなかったか。JLPTでは、得点段階9~10で正答率響音が大きく上昇していること
から、上位級で出題した場合、識別力がより高い項目となる可能性がある。正答2:21.0%、3:35.9%、
4:30.3%
27. レポートは手書きでも可。()、きれいに書くこと。
1 だって 2 それに 3 そのうえ 4 ただし
21.0 6.5 11.3 61.3
28. A「お茶のおかわり、いかがですか?」
B「あ、もう、()。そろそろ帰りますので。」
1 ごえんりやなく 19.4 2 おまたせしました 1.6
3 かしまりました 4.8 4 おかまいなく 72.6 NA1.6
29. 税金を () ののは、国民の義務である。(JLPTと同傾向)
1 あずける 2 かぞえる 3 おさめる 4 すませる
33.9 12.9 41.9 9.7 NA1.6
- JLPTでは、「あずける」が33.6%いた。正答は38.9%。
30. あの人は、こちらが何度だめと言っても、まただのみに来る。本当に () 人
だ。
1 こまかい 2 すまない 3 しつこい 4 おもたい
6.5 16.1 59.7 14.5 NA3.2
- JLPTでは、正答は40.8%、2が25.7%。
31. こわい人かと思っていたら、() いい人だった。
1 少々 2 案外 3 事実 4 当然
3.2 41.9 43.5 9.7 NA1.6
- JLPTでは正答が最も低かった(34.2%)問題で、「事実」が48.9%いた。正答選択者が誤答選択誤「事実」
を上回るのは得点段階9以上においてであったが、グラフにおける正答の選択率は右上がりの曲線であるた
め、得点上位グループと下位グループをより識別している。正答率、識別力に国別の特長・差はなかった(中
国語には「案外」がないので、意味的に合致する「事実」を選んだものと思われる)。
32. A「あれ、小林くんは?」
B「小林くんなら、() 帰りましたよ。」
1 さらに 2 どこかに 3 いまに 4 とつくに
19.4 14.5 35.5 29.0 NA1.6
33. このスーズを作るには () も時間もかかります。
1 手間 2 手紙き 3 手入れ 4 手般
48.4 12.9 25.8 11.3 NA1.6
34. 同じ英語 () の国といっても、そこで使われている英語はさまざまだ。
1 圏 2 産 3 園 4 編
82.3 1.6 1.6 14.5
35. 彼女はいつもここにこしていて、() がいい。
1 感情 2 愛想 3 愛情 4 感想
41.9 22.6 16.1 17.7 NA1.6
- JLPTでは、「感情」が25.6%いた。正答は57.9%。
36. 彼女は自分には才能があると () いる。
1 おもむいて 2 ひやかして 3 うぬぼれて 4 あつらえて
29.0 32.3 21.0 11.3 NA6.5
- JLPTでは、「おもむいて」が32.2%いた。「うぬぼれて」は46.1%。
37. このカメラは使い方が () ので、評判が悪い。
1 あつかましい 2 たくましい 3 ややこしい 4 ふさわしい
22.6 11.3 27.4 32.3 NA6.5

38. 今後とも、() よろしくお願ひ申し上げます。
1 何より 2 何だか 3 何でも 4 何とぞ
27.4 9.7 29.0 32.3 NA1.6
39. レポートのために図書館から借りていた本を()した。
1 返却 2 返済 3 返還 4 返品
75.8 8.1 12.9 3.2
- JLPTでは、中国語グループの正答率が特に低い。これは中国語の「還」に「戻す」という意味があり、「却」は「しりぞける」の意味で使われるため、「返還」を選んだ受験者が多かったと推定される。正答は41.3%。
- Q4 ()のところにとのことばを入れませんか。1・2・3・4から一番いいものを選びなさい。
40. 私は母()泣かせるようなことはしたくない。
1 に 2 を 3 へ 4 の
43.5 56.5 0.0 0.0
- JLPTでは、正答「を」20.3%。「に」を選んだ受験者が62.0%いて、得点段階でも10段階にならないと正答を選択した割合が上らない(「へ」は3.0%)。「の」は14.6%。自動詞の役役のときの助詞の使い方があまり定着していないことを示している。
41. 私が弟のシャツを洗って()。(JLPTと同傾向)
1 くださった 2 いただけた 3 やった 4 くれた
3.2 0.0 59.7 35.5 NA1.6
- JLPTでは、「くれた」が27.6%いた。正答は52.4%。
42. 荷物は私が来週の月曜日にお届け()。
1 くださいます 2 なさいます 3 いたします 4 ございます
4.8 6.5 82.3 6.5
43. ここに車を()。じゃまだ。(JLPTと同傾向)
1 止まるな 2 止めるな 3 止めろな 4 止まれな
32.3 56.5 6.5 4.8
- 自動詞/他動詞の区別し、正しい命令形を選べないという正答でない問題。JLPTでは誤答1(22.6%)と正答2(48.1%)が含まれて70.7%あることから、自動詞の区別が難しかったと考えられる。
44. これからパンを()ところす。
1 焼ける 2 焼く 3 焼けている 4 焼いている
19.4 46.8 16.1 17.7
- 自動詞/他動詞、また「～ている」の形を使うべきか否かで迷う問題。得点段階7までは「やけている」の選択率が高く、自動詞の圧(「やける」)の選択率も高い。
正しい理由としては、「やける/やく」がどの態様でも使っているわけではないこと、また他動詞としてよく出てくる「開ける」「開める」の「-eru」形につられて「やける」を他動詞として判断してしまったのではないかということなどが挙げられる。
45. あ、お金が()。
1 落としています 9.7 2 落としてあります 19.4
3 落ちています 46.8 4 落ちてあります 22.6 NA1.6
- アスペクトの問題。JLPTでは動詞力は高めであったが、正答率は低かった。3番レベルではアスペクトは難しい項目が、正答3：22.9%、2：30.9%、2：27.7%。
46. A「あした、いつしよに出かけませんか。」
B「あしたは友だちからに来る予定()。」
1 なんですから 2 ので 3 なんです 4 からです
50.0 9.7 38.7 0.0 NA1.6
- 理由を教わす「んです」の問題。理由を教わす一般的な表現である「から」や「ので」を選ぶ必要があり、その中で正しい問題となっている。JLPTでは、正答率は、国内(0.420)と国外(0.320)となっており、他の項目より高めである。理由の「んです」を使わないテキストが多いことも考えられる。しかし、このような「んです」は多く用いられるおり、誤答率も高いことから、今後このような問題は出題していく必要がある。正答3：33.1%、1：33.4%、2：17.2%、4：16.1%
47. 通勤に車を使っていると、運動不足に()。
1 しそうだ 2 なりがちだ 3 するべきだ 4 なるせいで
6.5 59.7 11.3 17.7 NA4.8
48. 現代の医学は進歩している。それに()、平均寿命が延びている。
1 ともなって 2 比べて 3 わたって 4 反して
75.8 11.3 6.5 6.5
49. 今回改善された育児休暇制度が()、今後子どもを持つ女性働きやすくなるだろう。
1 広まるようでは 11.3 2 広まらなければ 6.5
3 広まるからといって 17.7 4 広まれば 61.3 NA3.2
- JLPTでは、3が28.6%いた。正答4は45.1%。
50. 参加者の名前が()、教えていただけませんか。(JLPTと同傾向)
1 わかり次第 46.8 2 わかつては 14.5
3 わかった結果 12.9 4 わかったかと思うと 21.0 NA4.8
- JLPTでは、4が27.3%、正答1が51.3%。
51. 留学する()、勉強だけでなく、その国の文化を学んだり交流したりしたいと思う。
1 以上は 3 一方で 4 米には
38.7 29.0 14.5 16.1 NA1.6
- JLPTでは、正答1は51.5%、3は27.6%。
52. 本日は雨の中、遠くまで()、ありがとうございました。
1 来られてくださって 59.7 2 来てさしあげて 4.8
3 参ってさしあげて 9.7 4 おいでくださって 21.0 NA4.8
- (JLPTでは、) 敬語の問題は例年正答率、識別力ともに低くなる傾向があるが、今回は特に「おいでくださる」という敬語を学習していない受験者が比較的高得点段階上位グループにもいるということが予想される原因となった。

53. 完全にやろうと思う (), 体をこわす人がいる。
1 だけあって 2 につけ 3 かわりに 4 あまりに
24.2 12.9 33.9 21.0 NA8.1
JLPTでは、得点段階9から正答の選択率が上昇。
54. 彼は会社勤めの (), 福祉活動に積極的に取り組んでいる。
1 うちに 2 いかにで 3 かたわら 4 そばかり
48.4 16.1 21.0 8.1 NA6.5
55. 大学生の就職は、今年は去年 () さらにきびしい状況になることが予想される。
1 ののつとって 2 にもまして 3 にからんで 4 にかかわらず
14.5 30.6 16.1 30.6 NA8.1
56. 最近の若い親と (), 子どもが電車の中でうるさくても、ちっとも注意しようとしてない。
1 きたら 2 いえども 3 ばかりに 4 あれば
25.8 50.0 12.9 6.5 NA4.8
57. アパートの主人が突然追い出される () 保護する必要がある。
1 ことにすればこそ 22.6 2 ことがなければこそ 21.0
3 ことになるよう 4.8 4 ことのないよう 45.2 NA6.5
JLPTでは、「ことにすればこそ」が33.3%いた。正答は44.5%。
58. 1年に1回ぐらい (), こんなにしょっちゅう停電するようでは、普段の生活にもさしつかえる。
1 ならまだしも 2 ともなると 3 にあって 4 ほどでなくとも
16.1 21.0 11.3 43.5 NA8.1
59. 芸能人 (), 政治家 (), 法律は守らなければならない。
1 なり／なり 32.3 2 だの／だの 12.9
3 というか／というか 35.5 4 だろうが／だろうが 12.9 NA6.5
JLPTでは、1がどの得点段階でも高い割合で選択されており、下隣するものは段階9から10にかけてである。
正答は28.7%。
- Q5 ことばの使い方で一番いいものを1・2・3・4から選びなさい。
60. あやまる
1 知らない人の足をふんでしまったので、あやまりました。 79.0
2 手伝ってもらった時には、かならずあやまってください。 3.2
3 友だちに贈り物をもらったので、あやまりました。 4.8
4 困った時には、すぐにあやまってください。 8.1 NA4.8
61. おどろく
1 空がおどろいて雨が降りました。 6.5
2 日本の経済がおどろいて物の値段が高くなりました。 6.5
3 親にはおどろいている趣味があります。 0.0
4 受付に大きな犬がいたので、おどろいてしまいました。 85.5 NA1.6
62. 不安
1 あのころはやりたいことも仕事もみつからず、毎日が不安だった。 43.5
2 親を不安させないように、病気のことは言わないでおこう。 30.6
3 一人で会場まで行けるか不安の人は手をあげてください。 6.5
4 きのは夫の帰りが遅くて不安した。 16.1 NA3.2
JLPTでは2が27.0%、4が25.8%、正答1が34.6%だった。解答が1・2・4の3つに分散しており、意味は分かっているが所法（漢語の品詞性）の理解が不十分であり、学習者の弱点がはきりあらわれる結果となった。
63. 差別
1 彼は、「ひ」と「し」の首をきれいに差別して発音できる。 9.7
2 たまごを割ったら、黄身と白身に差別してください。 8.1
3 そんなことで人を差別してはいけません。 71.0
4 先に来た人から10人ずつ差別して座ってもらいました。 8.1 NA3.2
64. 露骨
1 昔のことはあまり露骨に覚えていない。 8.1
2 露骨にいやな顔をしてはいけません。 48.4
3 開始時間は露骨に知らせておきました。 14.5
4 新しいめがねにしたら露骨に見えようになった。 17.7 NA11.3
65. のしる
1 立ち入り禁止の所に入ろうとしている人をそっとのしった。 17.7
2 子どもが悪いことをしたらのしることが大切な教育です。 27.4
3 友人にたのまれて英語の手紙をのしってあげた。 22.6
4 会社で大きなミスをしてしまい、大声でのしられた。 21.0 NA11.3
JLPTでは1が28.3%いた。正答は33.5%。
66. 交付
1 息子に旅行の代金を交付した。 8.1
2 国から大学に補助金が交付された。 35.5
3 国民には国に税金を交付する義務がある。 41.9
4 今月の給料が交付されたら、新しい靴を買ってもらいだ。 8.1 NA6.5
中国語グループには難しい問題。中国語グループの正答率をもっとも低い。中国語の「交」は「お金を払う」という意味であり、2に解答が集中したことが考えられる。中国語グループの知識能力が0.210で、他のグループはすべて0.3以上（アルタイは0.412と最高）、正答は27.7%。